



---

## S1-1 異分野連携研究で日々の暮らしを支援：在宅看護・デザイン・企業連携事例

スーディ 神崎 和代

医療創生大学 国際看護学部 教授／札幌市立大学 名誉教授

10余年、ICTを活用して広域積雪地域の人たちの暮らしを支援する共同研究を重ねてきた。可能な限り、そして、その人が望むのであれば住み慣れた地域・在宅で生活をしながら療養をする考え方、つまり、国策でもある地域包括支援という考え方を基盤に、共同開発（在宅看護・デザイン・工学・企業連携）をした自己健康管理アプリの検証を2020年度に道民の協力を得て実施した。この事例を紹介する中で異分野連携、特にデザイン・工学との連携の重要性と異分野が連携して新たなモノを創出する際のポイントを共有したいと考えている。

---

## S1-2 Food Allergy をもつ幼児の親に対する情報通信技術を活用した支援

加藤 依子

札幌市立大学 看護学部 准教授

Food Allergy（以下、FA）は、幼児期に多く、アレルギー症状が重症化すると生命に危険が及ぶ疾患である。毎日の体調管理において、アレルゲンを回避するための食品選択はもとより、症状の出現時には迅速な判断と対応が求められ、親の心身の負担は非常に大きい。

Mobile Health Applicationの開発は、情報通信技術（以下、ICT）において最も急速に成長している分野である。しかし、FAに対するICT活用は未着手である。今回は、FAをもつ幼児の親に対するICTを活用した支援について私の取組みを紹介する。工学との連携に向けて、活発な討論を期待する。

---

### 指定発言者

諏訪 基（国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問）

田中 孝之（北海道大学 教授）